

国土交通省に寄せられた意見について
(第1回検討委員会(7月2日)から7月31日まで)

1	<p>1. 視覚障害者が、ハイブリッド車及び電気自動車の接近を確認することが出来るようにするために、以下の対策を講じて下さい。</p> <p>すべての車種に音を付けて下さい。</p> <p>走行音だけでなく、動き出そうとしていることがわかるように音をつけてください。</p> <p>上記の音は、運転手が必要に応じて鳴らすものでなく、必ず鳴るようにしてください。</p> <p>上記の音は、交通事故の防止に欠かせない設備と位置づけ、設備しなければならないものとしてください。</p> <p>2. 交通事故を回避するための音情報の役割について、たとえば聴覚障害者の交通事故の件数を調査するなどさらに踏み込んだ検討を行ってください。</p>
2	<p>低公害技術の流れは低ガス、低燃費に続き低騒音に向かうべきで、発音装置は時代の流れに逆行する。車と歩行者の安全を両立させる街づくりを考えるべき。そもそも運転者には歩行者の安全を優先する義務がある。「エコ減税」で公租を減らされているのだから、HVの運転者にはもっと公益への配慮が求められてもいい。発音装置が解決策になるとは思えない。車優先の発想はもうやめてもらいたい。</p>
3	<p>静かな車に乗りたいと思う人達も大勢おられると思います。特にご近所さんに迷惑をかけないようにと気遣い、わざわざトヨタのストロングハイブリッド(ホンダ等のマイルドハイブリッドは常にエンジンがかかっており静かではない)を購入される方もいらっしゃいます。このような人々はせっかくのストロングハイブリッド車を買っても結果的には無駄となり非常に気の毒です。</p>
4	<p>現在ハイブリッド車を所有している。この車に限らず昔から、歩行者に車の存在を知らせる「ソフト・クラクション」のような装置を付けていただけないものかと思っていました。ハイブリッド車に変えてから特にその思いが強いです。クラクションは他の自動車の運転者にたいして鳴らすもので、音も大きいので、歩行者に対して鳴らすことに抵抗があります。</p> <p>なお、走行中ずっと疑似エンジン音を鳴らす必要はないと考えます。</p>
5	<p>将来的に、ハイブリッド車やプラグインハイブリッド車、電気自動車等の静音の車が街中に沢山走るようになります。今は静かで驚くかもしれませんが、これらの車が増えていくごとに次第に慣れるでしょう。なので無理矢理ハイブリッド車等に音をつけるようにすることはやめていただきたいです。</p>
6	<p>ハイブリッド車なのにうるさければ誰も買わなくなります。せっかく地球にも優しいハイブリッド車が好調なのに歯止めをかけたいのですか？</p>
7	<p>運転者、歩行者双方の注意と、現在のクラクションで事故は防げるとおもう。</p>
8	<p>視覚障害者には有効かも知れないが、聴覚障害者には意味がないはず。もし高度難聴に対応しようとしたら、70DB以上の音になり、かなりうるさくなる。</p>
9	<p>ハイブリッド車だけが特に静かなわけではなく、エンジン車も高級なものと新車は静かである。また、ハイブリッド車の方も、モーターの回る「ウィーン、ウィーン」という音を実はだしているし、タイヤ音もする。わざわざハイブリッド車に音をつける必要はない。</p>
10	<p>ハイブリッド車は車内が特に静かで、救急車などのサイレン音に気づきやすいというメリットがある。</p>
11	<p>自転車もエンジンがなく、静かだが、それと同等に考えられないか。</p>
12	<p>音は、メロディーや疑似エンジン音では人の好みに合わなかったり、やうるさく感じられるとおもう。馬の蹄の音にしたらどうか。馬車の音を不快に感じる人は少ないと思うし、ほぼ万人(どの国の人でも)馬車が近づく音を危険と理解すると思う。</p>
13	<p>自動的に音が出る仕組みでなければ、運転者のうっかり忘れで音がない状態になってしまう可能性もあるので、渋滞になったら音を消す、等、運転者に操作を委ねるのは、運転者の負担を増すばかりで良くないと思います。</p>

14	合法的に音楽等を流せる装置を付けることを合法化すると、せっかく二輪車の騒音規制を強化しても、警察の取締が難しくなる。 発音装置の検討は暴走族の助長だけの安易な発想であり、簡単に決めないでほしい。
15	視覚障害者には手帳などにセンサーを組み込んでほしい、全車両にも障害者センサーをつけることで、歩行時の安全のみならず、障害者専用の駐車場不正使用を防ぐことも出来る。
16	走行中のモータ駆動音や走行音等は意外と聞こえるものだ。 突然のクラクションが不躰であると感じる人がいるように、他の装置で警告を発しても内容としてはクラクションと同質であり、「車が通るから避けなさい」と言われたと感じる人が次第に増えると考えられる。一方、夜間の市街地走行であれば、歩行者への警告は周囲の家々にも聞こえることになり、新たな騒音問題となる。 「静か過ぎるから音を出せばいい」は安易過ぎる発想だ。
17	まずHV車にある一定の波長を持つ送信機を装着する。歩行者はクレジットカード程度の受信機(マイクロチップ内臓カード:ICカード)を持つ。HV車を受信すると、 視聴覚障害者の場合 歩行者が持つICカードより補聴器へ警告音「HV車が通過します！」とメッセージを送信する。 子供や高齢者の場合 児童や高齢者が持つICカードより携帯電話技術を活用して携帯電話等に通過情報を送信。受信した携帯電話等は、HV車通過音をメロディー等で知らせる。 一般人 基本的に児童と同じ方式とし、あくまで持つ持たないは自己責任。マイクロチップ等警報受信装置の開発費用や国民に配布するICカード等は国と各ハイブリッドディーラーが負担。
18	既にナビその他で電子合成「音声」によるごく自然な発音での合成音声が可能となっているので、例えば女性の声で「車両が接近します」との音声を発する装置をつければさほどの技術も必要ないと考えます。 スピーカーはボンネット先端などその音が歩行者に近く、運転者に気にならない場所に設置すれば、音量設定で騒音やましてや「交通弱者」を驚かすこともなく危険を認知させることはできるのではないのでしょうか。 また始動は、現在でも右左折時に連動してお知らせするシステムがあるように、専用の押しボタン式また車両周辺(バック時のことも考え)のセンサーと連動して一定速度以下で始動するなど、システムも現有の技術で比較的安価に実現可能だと思います。 低速走行時の静穏もウリのハイブリッド車、くれぐれもその良さをなくさないような善後策を検討いただきたいものです。
19	私はあまり良くない方向性の対応だと思っています。せっかく静かな車に発音装置を取り付けるのは「無駄な騒音」「無駄なエネルギー消費」です。 視覚障害者の方のことはわかりませんが、少なくとも健常者は音だけで判断せず、常に目視で周囲を確認すべきです。 もちろん音を出すことでより安全性が高まるのはいいことだと思いますが、「音がしなければ安全」と国民が思い込めば事故は減りません。特にHV車と同様静かな自転車が絡む事故の増加が心配です。 どうしても装置が必要だとしても、事故時の歩行者の責任を重くする法案をセットにするとか、歩行者や自転車が自ら周囲を目視確認するように促すのが国の努めだと思います。
20	ハイブリッド車等の静音性に関する対策について無駄な検討は止めてほしいと強く要望いたします。 ハイブリッド車の大きな利点として静寂さがあります。 これまで製造メーカーは静寂さを追及するため、多大な工夫を重ねています。 騒音問題は非常に大きな問題で、エンジン音、排気音、駆動音、大型車の右左折のガイダンスにも迷惑しています。 それに対して、わざわざ音を発生させるといった案の場合は特に強く反対します。 また、その検討等に対して税金が無駄に使われる事は更に許せません。 直ちに本検討委員会について解散して下さい。
21	平たいジェラルミン製の筒(長さ12.5センチ、幅約3センチ)で、片側をタイヤホイールのナット部分に固定する。中に、硬貨状の金属(直径約3センチ)を入れると、タイヤの回転で上下に動き、鈴のように音が鳴る。時速20キロを超えると遠心力で硬貨は動かなくなるため音がしなくなる。